



物価高騰から、暮らしと健康、営業守る対策を 日本共産党

6月市議会
(6/5~19)

情報公開・市民参加で
元気に暮らしを
暮らせる市民主体のまちを

イラン戦争・ホルムズ海峡封鎖等中東の戦争は尊い人々の命を奪い、都市など国土を破壊する戦禍は長期化の様相を呈しています。原油・ナフサを原料とする輸入品の不足と値上げが世界と日本経済に深刻な影響を広げています。日本共産党は疲弊する市民の暮らしと営業を守る対策の早期実施へ、開会中の国会、市議会内外で皆さんと力を合わせ施策の実現に尽くします。



写真手前がA街区再開発予定区域で暫定利用される駐車場、奥の右にリボンビル（5月25日撮影）

6月5日開会の市議会で、加増みつ子・遠山ちえ子・本田かずなり議員は、国民健康保険の在り方、市民参加のまちづくり、知る権利の保障など、元気に暮らしやすい取手市へ市民の声を届け、その実現に尽くします。一般質問の概要を紹介します。

国保会計の正常化・基金活用で 国保税引き下げ・後期高齢者支援を

市議会議員
加増みつ子

市は5月20日、議会福祉厚生常任委員会で、国保基金は令和8年度末41.5億円、以降も同規模の基金残高が続く、令和12年度で35.7億円の見通しを示しました。これまで「保険料の県統一による激変緩和に活用」を理由に市は、過大な基金積み立てを続けてきました。基金の国保加入者への還元、国保税を払い続けてきた後期高齢者への支援を求めます。

合わせて、取手駅西口・桑原2大開発についていたします。

取手市 「二大開発」

イオン撤退 桑原開発は事実上白紙に

取手市は、イオン撤退後の「桑原地区土地区画整理事業」について5月26日、新たに事業協力者に見込む「業務代行優先交渉権」の応募を開始。募集要項には「今回の公募時点で、準備組合・イオン・取手市が交わした覚書は解約、事業協力者（イオン）は解除された」「新応募者の提案はこれに拘束されない」としています。事業開始から13年、これまで係った費用は約5億円。「関東最大級の賑わい施設」「イオンが来る」と宣伝し、計画を誘導した取手市の責任は極めて重く、新計画はこれまでの検証なくしてはありえ

ません。取手駅西口「A街区開発」も、当初の事業協力者はすでに撤退、事業の行き詰まりは否定できません。

今号から「取手駅前開発を考える会」遠藤俊夫代表のご協力を頂き標記の「再開発と図書館」シリーズを掲載します。



今年も桑原田植えを終えた水田5月25日撮影

市民公募制を取り入れ 市民参画のまちづくり推進を

市議会議員
遠山ちえ子

地方自治体＝取手市の役割は、地域住民の身近な生活課題を解決し、福祉の向上を図ること。住民自身が地域の行政を決定（住民自治）していくとしています。市民が行政の計画策定や運営に関わり、市民の声が生かされる取手市政実現を求めます。合わせて、取手市として「介護職員等の処遇改善」、「藤代スポーツセンターの環境改善」を求めます。

街づくり 壊しておいて 活性化?

遠藤俊夫
(取手駅前開発を考える会代表)

とはない。先日、図書館主催の「ふさわしい図書館を一緒に考えよう」講演会が行われた。

講師の浅野さんは、これからの図書館は「一文化的体験、体感、二思いがけない本との出会い、三自ら学ぶ場」で、テーマを持った棚で市民と司書が対話する場を作ることを強調され、「賑わい」を取り戻すための図書館づくりの発想を諫められた。

図書館司書の役割の重要性を教えられ、指定管理体制では良い図書館はできないことを確認できた。非常に有意義な講演だった。

取手駅西口北の区画整理事業が32年もかかったために、あたり一面駐車場ばかりになっている。

1985（昭和60）年再開発事業で建てられた「リボンビル」は、今も6階以上が空き家状況だ。市が今まで進めてきた“街づくり”事業について総括や反省が厳しく求められているのではないだろうか。それなのに、またまた、「賑わいを取り戻し、駅前の活性化」を大義名分に「図書館を核とする公共施設」の計画を進めようとしている。硬直した思考と優柔不断な行政執行にあきれてしまう。

市民にとってこんな不幸なこ

「再開発と図書館」

シリーズ①

知る権利の保障 行政運営の基本的な責務

市議会議員
本田かずなり

市民の取手市情報の取得は、広報とりでや市のホームページ、公式LINEなどからです。

広報とりででは一般紙の購読世帯にしか配布されず、住む年代層によって情報取得は異なります。知る権利を保障する行政の責務をどう果たすのか質問します。とりわけ、今不燃ごみ回収曜日の変更で大きな混乱が生じています。ごみ問題も含め、行政の情報提供と周知徹底の方法、住宅耐震化促進についてもいただきます。

戦争する国づくり加速する 高市政権

憲法9条は、アメリカとイスラエルによる不当な武力行使への加担や自衛隊派遣を抑制する重要な役割を果たしてきました。しかし高市政権は、政府とし

て義務付けられている「憲法尊重擁護義務」(99条)を無視し、憲法改悪による「戦争できる国づくり」を加速させています。

憲法生かして平和を 9条守る署名広く広く


日本共産党は、誰もが戦火に脅かされず平和に安心して生きられる社会を実現するため、市民の皆さんと力を合わせます。

平和な社会を守り抜くためにも、ぜひ「憲法9条改悪に反対する請願署名」へのご協力をお願いいたします。

私たちは戦争につながる憲法改悪に反対します
 憲法9条改悪に反対する請願署名

にご協力下さい

署名用紙はこちらから →



第65回 茨城県母親大会in稲敷 記念講演/ソロライブ 松本ヒロさん



2026年6月7日(日) 12:00~
稲敷市あずま生涯学習センター

日本国憲法公布から80年。今年の茨城県母親大会は、平和憲法の真髄を伝える一人芝居「憲法くん」が大好評のコメディアン・松本ヒロさんのソロライブを行います。政治風刺満載の舞台は、井上ひさし、永六輔、立川談志などが大絶賛。国会では、改憲派議員が

多数を占め、憲法審査会が毎週開かれていますが、「平和憲法を守れ」という人たちが国会を取り囲み、全国各地で集会や署名活動を行っています。そんな中、松元ヒロさんのソロライブに期待が高まっています。「茨城の農業を考える」リレートークも実施されます。



憲法守れ、ナフサは足りないとコールする人たち=5月19日、国会正門前

戦争への道・憲法改悪許すな！

草の根の運動は、国会前抗議行動をはじめ、反戦・憲法改憲反対の市民運動が全国で広がりを見せており、5月3日憲法記念日には「憲法大集会」が5万人規模で開催され、平和を求める国民をばねています。取手市内でも5月12日の憲法学習会や「憲法守る緊急アクション」などが取り組まれています。

また、メディアの報道に限られる中でも、SNS等を活用した若い世代による草の根の運動が広がっています。主権者である国民が自発的に声を上げるこれらの取り組みは、極めて重要な民主主義

反戦平和草の根から

義の動きです。戦争法廃止・立憲主義守れ集会・デモ 72回
市民団体・個人と政党・政治団体などの参加する「戦争させない・9条壊すな！総がかり取手行動」が2015年「戦争法」が強行されて以来72回の集会・デモ、学習講演会等を行っています。



総がかり取手行動パート 72 =4月25日、取手駅西口



安全・快適な街 皆さんと力合わせて

～県道谷田部藤代線交差点 停止線・横断歩道の塗装を要請中～

遠山ちえ子



生活道路の安全な整備は行政の責任であり、私たち市民の願いです。この写真の場所は、比較的大型トラックの通行が多く丁字路のため、停止線の位置が横断歩道よりも手前に表

示されています。ところが停止線が見えにくいと、対向車線に大型トラックが入ってきて改めて停止線の位置に納得できます。

横断歩道の塗装も併せて、市から県(竜ヶ崎工事事務所)を通して、担当部署の取手警察署に届けました。現在100カ所もの要望があり、優先順に行うとのこと。「予算・人手不足」で、市民の安全先送りでは困ります。粘り強く声を届けましょう！ ご意見・要望お寄せ下さい。



薄くて見えにくい「県道210・谷田部藤代線」藤代地先の停止線と横断歩道

「食と農を考えるシンポジウム in とりで」のご案内

- 7月2日(木) 午後1時半開会 取手福祉会館小ホール
- 基調講演 「未来の子どもたちの食と農業」 涌井義郎さん (元鯉淵学園講師)
- 特別報告 「有機農業と地域の未来」 秋山豊さん (JA常陸組合長)

食料と農業に少しでも興味のある方は必見です。第1部は涌井義郎さんの基調講演。これまでたくさんの有機農家を育て、環境問題・生態系にも精通しています。第2部は特別報告で、秋山豊さん(JA常陸組合長)のお話し。秋山さんは、常陸大宮市のオーガニック給食を行政と連携し実現させました。そして、第3部は涌井さんと秋山さんを囲んで会場の参加者とのディスカッションを予定しています。取手市並びに取手市教育委員会の後援を受けています。早めにお申し込みください。

食と農を考えるととりで未来プロジェクト 根本和彦 090_6471_7090